インターロイキン10プロモーター多型と上咽頭がん発がん,EBウイルスとの関連

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-12-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Murono, Shigeyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061079

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

インターロイキン10プロモーター多型と上咽頭がん発がん,EBウイルスとの関連

Research Project

All

Project/Area Number

15790929

Research Category

Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Otorhinolaryngology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

室野 重之 金沢大学, 大学院・医学系研究科, 助手 (20345622)

Project Period (FY)

2003 – 2005

Project Status

Completed (Fiscal Year 2005)

Budget Amount *help

¥3,500,000 (Direct Cost: ¥3,500,000)
Fiscal Year 2005: ¥500,000 (Direct Cost: ¥500,000)
Fiscal Year 2004: ¥1,900,000 (Direct Cost: ¥1,900,000)
Fiscal Year 2003: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Keywords

上咽頭がん / インターロイキン10 / 一塩基多型 / 上咽頭癌

Research Abstract

IL-10プロモーター領域の1塩基多型(SNP)としてこれまで報告され,本研究の対象として考えていた-592(C/A), -819(C/T), -1082(A/G), -1330(G/A), -2763(C/A), -2849(G/A), -3575(T/A)のうち,引き続き-1082(A/G)に着目して検討した.
上咽頭癌患者30名および健常者30名において,書面による同意を得たのちに,末梢血よりゲノムDNAを抽出した.過年度の結果よりTaqManPCR法を用いた方法ではなく,ダイレクトシークエンス法を用いた検出法を利用した.-1082SNPを検出するためのプログラムに一部変更があり,過年度に施行したものも含めて再検討した.
その結果,-1082SNPに関しては上咽頭癌患者と健常人の間に特に差を認めなかった.したがって上咽頭癌に特異的なSNPは-1082(A/G)に関しては存在しないと思われた.したがって,当初予定していた-1082(A/G)に関するルシフェラーゼアッセイによる転写活性化能の違いの検討は施行しなかった.
以上の結果から,-1082(A/G)SNPは上咽頭がん発がんに関与しないものと推測された.

Report (3 results)

2005 Annual Research Report

2004 Annual Research Report

2003 Annual Research Report

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-15790929/

Published: 2003-03-31 Modified: 2016-04-21